



戦争法案を廃案に追い込むまで、発行します。(中野貞彦)

No.2 2015.6.10

☆重要な記事を集めて紹介し、短い感想、コメントを付します。出所の URL を明記します。

.....
(中野：6月9日(火曜)、緊急学習会「許すな！戦争をする国づくり OSPRAY 横田配備」(主催は革新都政をつくる会と日本共産党東京都委員会)に参加。たいへん興味深い内容であり、今後の力になるので、概要を紹介する。国会報告を宮本徹衆院議員予定のところ、田村智子参院議員が行った。)

政府自身も理解できない法案、安部の思惑は狂い始めている 攻めに攻めて、声を届け、廃案に！！

—田村智子参院議員の国会報告—

自民党は6月24日の会期末までに戦争法案を80時間の審議を行って衆院を通過させるつもりだったが、もうすでに思惑が狂い始めている。5月27、28日に志位委員長が質問、29日はストップ、6月1日にはTV中継が入り審議したが、またストップし5日金曜日にやっと再開した。原因は政府答弁、岸田外相答弁が、重要影響事態のおり経済問題だけでは自衛隊はだせない、とこれは過去の答弁を踏襲したものだが、本当は、石油が来ない、凍死者がでる、重要影響だ、自衛隊を出す、ということだった。イランが過去に、ホルムズ海峡封鎖を脅して言ったことを、安部首相が利用している。およそあり得ないことなのに。

法案は10本を一本にしたのが、実際は関連法案も含めると20本、それに国際平和支援法、それらを5月半ばにやっと出した。岸田答弁のように、政府自身も理解できていない。国民はなおさら理解していない。自公の密室協議しかやってなくて5月半ばに出して来て6月24日の会期末に通す、日本の未来に関わる法案をそんなやり方で通すなんて、恐ろしいこと！

野党は、民主党は割れており、維新は自衛隊をもっと活用しろという。見解が違っても法案審議に対しては見方が共通した部分があり、野党共闘を強めて行きたい。

自民党には、何がなんでも通す、という緊張感が感じられない。決算委員会の理事の懇談会で、自民党議員がしきりに安政法制の特別委員会にあなたは入るのか？と聞き回っていた。最後に、参議院に持ってこなければいいんだ、という話になった。私たちが、攻めに攻めて、声を届けて行けば、向こうの思惑をストップできるのではないか。

共産党はチームを作って検討している。志位委員長の質問にあるように、2つの柱がある。一つは憲法違反、もう一つは武力行使。武器の使用は武力行使ではないと言っているが、バズーカ砲を持って行ってどこが自己保全なのか？憲法審査会での長部発言も、武力行使は外国の軍隊の武力行使と一体になると言っており、志位委員長の発言と同じです。小林節さんは、船田議長の方をにらんで話している。私は自民党幹部とずっと改憲を話し合ってきた、それをぶっ飛ばしてこれは何なんだ？ということでしょう。こういう政府に対しては選挙で結果を出すしかない、と二度までも言っている。

安政法制は憲法違反ということへの、政府の反論は砂川事件の判決を持ち出してくる。しかしそれは当たらない。安部首相はまたお友達を引き出してくるかもしれないが、憲法審査会の3人の違憲発言を徹底的に活用して、会期延長の8月上旬でなく、6月24日の会期末までに廃案に追い込みましょう！

(田村氏は、報告後急いで国会に戻る)

(中野：小泉親司氏(日本共産党の基地対策委員会責任者)の講演はNo.3で)